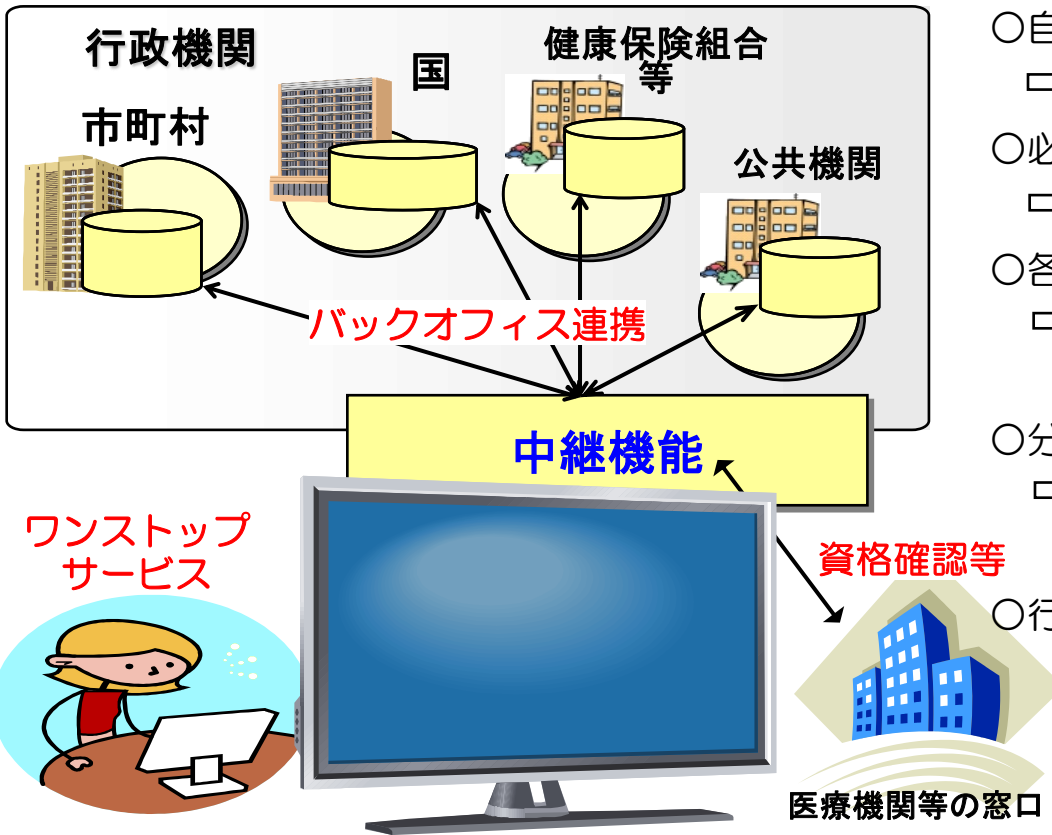


# 社会保障カード（仮称）の基本的な計画に関する報告書のポイント

- ◆ 政府が目指すべき将来像として、①複数の機関にまたがる自分の情報等の入手や必要な手続の実施を、1カ所で完結できる便利なサービス(ワンストップサービス)の実現、②その基盤として、プライバシー侵害等への不安を極力解消しつつ、関係機関の情報連携(バックオフィス連携)を行う仕組みの構築が重要。
- ◆ 社会保障カード(仮称)の検討においては、このような将来像を見据え、年金記録等の確認を可能としつつ、健康保険証等の役割を果たす仕組みを検討。
- ◆ 今後、実証実験を行い、仮定した仕組みについて検証しつつ、電子行政等の取組み、各分野における環境整備や課題への対応と連携し、社会的な合意を前提として、可能なサービスから順次実施。



- 自分の情報の入手や必要な手続等のワンストップ化  
⇒ 年金記録等の入手・確認
- 必要なお知らせ等の情報を提供  
⇒ 手続漏れによる未加入・二重加入の防止
- 各機関の業務効率化、コスト削減  
⇒ 各種通知等のコストを削減、医療費請求の過誤調整事務の削減による保険者等の事務負担軽減
- 分野を横断した状況の把握とそれに応じたきめ細やかな施策  
⇒ 制度や保険者をまたがった場合でも自己負担額の調整を行うなどの施策の可能性
- 行政サービスの透明化や個人情報等へのアクセスの監視